



It's a *New* BOOK

発行：2019年2月12日
Kaizen-Watcher編集グループ

『東大生の本の使い方』号

私が知りたかったこと、皆さんにもきっと役立つ 東大生の本の「使い方」



現役東大生や東大卒の養老孟司先生、上田正仁先生、藤原和博先生が、自らの読書法について紹介しています。

「感覚を取り戻すことを意識して読む」
読書の目的は知識を得ることではない。むしろ、自分の感覚を取り戻すことにある。読書を通じて、自分の感覚を取り戻すことができれば、それは素晴らしいことだ。

「本は心の鏡」「読書は「自己」への修行」
読書は自分の心を映し出す鏡である。また、読書は自己を鍛錬するための修行でもある。読書を通じて、自分の心を磨き、自己を鍛錬することができる。

「著者の目から」を受け取る
読書は著者の目から受け取るものである。著者の目から受け取ることで、著者の考えや感情を理解することができる。

「息をすまじに本を読んだ」
読書は息をすまじに本を読んだものである。読書を通じて、自分の息をすまじに本を読んだ。

「正しく知る」は「おやっ感」で読む
読書は正しく知るための手段である。また、読書は「おやっ感」で読むべきである。

「母の本棚と父の本棚から学んだこと」
読書は母の本棚と父の本棚から学んだことである。読書を通じて、母の本棚と父の本棚から学んだこと。

出版元：三笠書房 重松理恵 著 221頁 定価1,400円+税

私がお世話になった東大出身の方々はいずれも読書家で、中でも東大金時計の上司は毎週のようにかなり厚手の本を近所の書店から届けさせ、読まれていました。

その上司は読み終えた本を私たち部下に「読んでみなさい」と下さるのです。

しかし私たちは、あんなにたくさん本を購入して読めるのだろうか、と余計な心配をし、よせば良いのに読まれているかどうか、昼飯を賭けることになりました。

私が質問してくることになり、上司に「先日頂いたこの本にこういうことが書いてありますが、これはどういう意味でしょう？」と質問しますと「おう、その後ろの何頁に答えが書いてあるよ」の答えに愕然、いい加減な自分に赤面、慌てて席に戻りました。

分厚い本を毎週購入し、読んでおられる、流石、東大金時計とそれまでとは打って変わって心底尊敬することになったのです。

同様の経験を別の東大出身の方でも経験し、何故、東大出の秀才はそんなにたくさん本をしっかりと読み、記憶できるのか、その後ずっと疑問に思いながら数十年経過した今まで答えを見いだせずにいました。

偶然ですが昨年12月20日、三笠書房がこの本を出版、ひょっとすると東大生は独特の本の選び方、読み方をしているのではないかと考え、早速、本屋さんに注文し、読み進むと、答えが書いてありました。

本を“おやっ感”で買うとか、“ロコミ”で良書を選ぶ、「なぜそうなるのか?」、「どうしてそうなるのか?」を考えながら本を読むなど、なるほどと唸るばかりです。

三笠書房刊《東大生の本の“使い方”》

「東大生の本の“使い方”」は全4章で構成されています。

第1章は「東大生の本の選び方・読み方・活かし方」ですが・・・

○ **東大生は何を、どう読んでいるのか？**は著者の**重松理恵**さん、東大生協の書籍部に在籍した経験者だからこそ見えてくる東大生の「読書のルール」について書いてあります。**重松さんの分析力の感動。**

○ **おやつ感覚で本を買う・・・**「驚きの読書習慣」では東大生は“おやつ”を買うのと同じ感覚で文庫や新書を「まとめ買い」するのが当たり前だと書いてあります。東大生にとっては読書は日常に溶け込んでいる“当たり前”の行為だそうです。

今、世の中に蔓延っている“スマアホ”のような人たちには無縁の存在ですね。

○ **本選びは「真剣勝負」**

「東大生は自分に満足していない」ので足りないことを補うためには読書が一番の近道、ということで選ぶ本が本当に役立つものかどうかを見極めるため「真剣勝負」そのものだと言います。

東大生は「**良質の本をたくさん読むからこそ頭が良くなり、その結果、さらに難しい本をたくさん読めるようになる**」これが東大生の知性の秘密だと書いてあります。

東大生が本を選ぶ目的は？

- 1) **世界で活躍するため**
- 2) **スキルアップをするため**
- 3) **幅広い教養を身に付けるため**
- 4) **最新のトレンドを追うため**

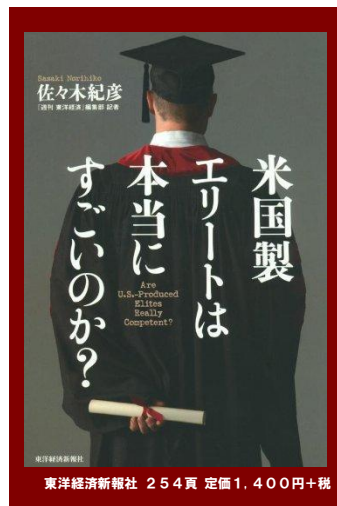
の四つの目的を持って選ぶそうです。

第2章は「**なぜ、この本は東大で売れ続けているのか？**」をテーマに本を紹介しています。この本の肝と考えられるのが第2章だと思いました。

第1章で紹介された「**東大生が本を選ぶ4つの目的**」に基づき、具体的な書籍名とその概要が紹介されています。

第2章では、最初に**1)「東大生が世界で活躍するため」**に読んでいる本の“ベスト20”が取上げられ、その第1位は東大史上最高に売れた本として「**これから“正義”の話をしてしよう**」が紹介されています。

ハーバード大学史上最多の履修者数を記録、ハーバード大学の“白熱教室”としてテレビでも放映され、話題になったマイケル・サンデル教授ですが、授業風景をまとめた“**Justice**”は、米国でもベストセラーになった話題本を、鬼澤忍さんが翻訳したものです。



第2章の第3位として紹介されたのが「**米国製エリートは本当にすごいのか？**」という本です。

著者の佐々木紀彦さんは慶應義塾大学卒業後、東洋経済新報社入社、記者として活躍中の2007年から2年間休職してスタンフォード大学に留学した体験をまとめたものです。

米国はじめ留学してきた学生、将来、各国で活躍することになる学生がどのような勉強をしているのかを自ら体験し、まとめた本です。

なんと4年で480冊、1年120冊の本、しかも教授から示されたいろいろなジャンルの本を読んだ上で出席しなければ授業について行けない、議論に参加できないため必死に読み込むのだそうです。

この部分を読んだだけでもこの本を買った価値があったと思ったことを記憶していますが、米国のエリートの一面ですね。

第3章は「**東大生が読んでいる“東大本”と“文庫本”**」です。



東大発ベンチャーの「ユーグレナ」は、植物と動物の両方の性質を備えた微生物“ミドリムシ”が人間が生きて行くために必要な栄養素をすべて備えていることに注目し、屋外での大量培養に成功した出雲充さんが起ち上げた企業ですが、その成功物語です。

およそ5億年以上前から地球上で生き続けていると言われる“ミドリムシ”は、優れた光合成能力を備えており、高濃度の二酸化炭素を吸収処理する能力を持っていると言われ、地球温暖化にも役立つ、さらには体内に蓄えて油分を精製するとジェットエンジンの燃料にもできるとのことで良いことづくめなのだそうです。

「ユーグレナ」を興した出雲さんがどん底から成功するまでの悪戦苦闘を記したこの本は東大生には人気の本だそうです。

三笠書房刊《東大生の本の“使い方”》

第4章は東大出身者が語る本の「使い方」を紹介する「私はこうやって読んできた」ですが、略報の最初の頁に紹介しているとおおり、東大在学中の伊沢拓司さんや水上颯さんはじめ、東大出身者の山口真由さん、藤原和博さん、東大の上田正仁教授、養老孟司名誉教授がご自身ではどのような本の読み方をしたかについて紹介しています。



最初は東大在学中の伊沢拓司さんの読書法ですが「**正しく知るには、やはり“読書”がいい**」といます。

また「**読書には“3D”の広がりがある**」と、スマホで読んだ気分になっているのと異なり、深く掘り下げる効果があると思います。

さらには「**あとから引っ張り出せる”ように読む**」とは、まさに私が質問した時に即座に上司が「それはその後の何頁に答えが出ているよ」との答えがなぜできたのかの解答でもありました。

続いて東大在学中の水上颯さんは「**息をするように本を読んできた**」と言います。

水上さんにとって読書は日常生活の一部、スマホ族がネットサーフィンをしている感覚で本を読んでいるそうです。

特に「**世界を広げるための読書を心がけている**」結果、ジャンルを問わず読む、苦手意識を持っていた歴史にも次第に興味を持つことができるようになったと言います。

3人目は東大法学部を卒業後、財務官僚などを経験後、ハーバード・ロースクールに留学、ニューヨーク州弁護士をしている山口真由さん、両親の書棚から読みたい本を内緒で読んでいる内に「**本当に読みたい本を読む**」ことが大事だと感じたそうです。

続く藤原和博さんは東大卒業後、リクルート入社、2003年から義務教育初の民間校長として杉並区立和田中学校校長を務め、話題になった方です。

大学のゼミで知り合った先輩の家に招かれた際に格好良い先輩のようになりたいと、書棚に並ぶ本のタイトルをメモし、片っ端から読み、衝撃を受けたのが「**ピーターの法則**」、本を読むことで「**うわっ、こういう見方があるのか**」と視点の転換が図れることがあっても幸せと、読書は「**著者の能のかけらを自分の脳にカチャッとほめ込むような作業だ**」と言っています。

東大の現役教授の上田正仁先生は「**本は心の“癒し”、“励まし”、“肥し”**」とのこと、「**学生であろうと社会人であろうと、せっかく本を読むのなら、つまみ読みや流し読みはせず、自問しながら掘り下げていくことをお勧めします。一冊をとことん掘り下げる**」が上田先生の読書法だそうです。

最後に養老孟司名誉教授は「**感覚を取り戻すことを意識して読む**」そうです。

鎌倉から大学までの通学時間片道1時間を有効に活用、読むのが癖になり、歩きながら読書をした結果、自らを「**変なヤツ**」だったと言っていますが「**のめり込んで読まない面白くない**」と書いてあります。

各章の始めには、下記のようなその章のトップ20が選ばれ、紹介されています
「世界で活躍するため」に読んでいる本（上位3点）

- ① これからの「正義」の話をしよう…マイケル サンテル 著 鬼澤 忍 訳
- ② 20歳のときに知っておきたかったこと…ティナ シーリグ 著 高遠 裕子 訳
- ③ 米国製エリートは本当にすごいのか？…佐々木紀彦 著

「スキルアップをするため」に読んでいる本（上位3点）

- ① 東大生が書いた問題を解く力を鍛えるケース問題ノート…東大ケーススタディ研究会
- ② 現役東大生が書いた地頭を鍛えるフェルミ推定ノート…東大ケーススタディ研究会
- ③ できる研究者の論文生産術…ポール J. シルビア 著 高橋 さきの 訳

「幅広い教養を身に付けるため」に読んでいる本（上位3点）

- ① 正義論…ジョン ロールズ 著 川本 隆史、福岡 聡、神島 裕子 訳
- ② 一般意思2.0…東 浩紀 著
- ② それでも、日本人は「戦争」を選んだ…加藤 陽子 著

「最新のトレンドを追うため」に読んでいる本（上位3点）

- ① 人工知能は人間を超えるか…松尾 豊 著
- ② 21世紀の資本…トマ ピケティ 著 山形 浩生、守岡 桜、森本 正史 訳
- ③ 僕は君たちに武器を配りたい…瀧本 哲史 著

三笠書房刊《東大生の本の“使い方”》

東大生協書籍部の棚にはこのような本が並んでいるようです

- ① 世界で活躍するため、② スキルアップをするため、③ 幅広い教養を身に付けるため、そして④ 最新のトレンドを追うため、に本を熟読することから益々頭が強化されるわけですね。第2章から第4章の各章で紹介されている“トップ20”の内の上位3冊が下に示す本です。

これからの
「正義」の
話をしよう
いまを Justice
生き延びる
ための哲学
Michael J. Sandel 鬼澤 忍=訳
マイケル・サンデル 早川書房

早川書房 380頁 定価2,484円(税込)

What I Wish
20歳のときに知っておきたかったこと
I Knew When
スタンフォード大学 集中講義
I Was 20
Tina Seelig フェイナシエリブ
スタンフォード大学フェリス・プレッシャー・センター
メダタケツグ・アタル・タケ
高島裕子=訳、三ツツ新書=解説

阪急コミュニケーションズ 231頁 定価1,512円

米国製
エリートは
本当に
すごいのか?
Are U.S.-Produced
Elites
Really
Competent?
佐々木紀彦
[译者 東洋経済] [編集 野村 紀善]

東洋経済新報社 254頁 定価1,400円+税

～東大生が書いた～
問題を解く力を鍛える
ケース問題ノート
50の厳選フレームワークで
どんな難問もスッキリ「地頭化」!
東大ケーススタディ研究会 著

東洋経済新報社 168頁 定価1,620円(税込)

現役東大生が書いた
地頭を鍛える
フェルミ推定ノート
16の厳選5ステップで
どんな難問もスラスラ解ける!
東大ケーススタディ研究会 著

東洋経済新報社 144頁 定価1,566円(税込)

How to Write a Lot
できる
研究者の
論文生産術
ポール・J・シルクウィア 著 高橋まゆみ 訳
「どうすれば
「たくさん」書けるのか」

東洋経済新報社 192頁 定価1,944円(税込)

A THEORY OF JUSTICE
REVISED EDITION
John Rawls
ジョン・ロールズ
川本隆史 / 福岡 聡 / 神島裕子=訳
正義論 改訂版

紀伊国屋書店 844頁 定価8,100円(税込)

人工知能は
人間を超えるか
ディープラーニングの先にあるもの
松尾 豊 Yutaka Matsuo
角川 Epub 選書

角川書店 263頁 定価1,512円(税込)

トマ・ピサティ
21世紀の資本
LE CAPITAL
ピサティ トマ
みすず書房

みすず書房 728頁 定価5,940円(税込)